

第4章

大梅田地区が担うべき役割と都市ビジョン

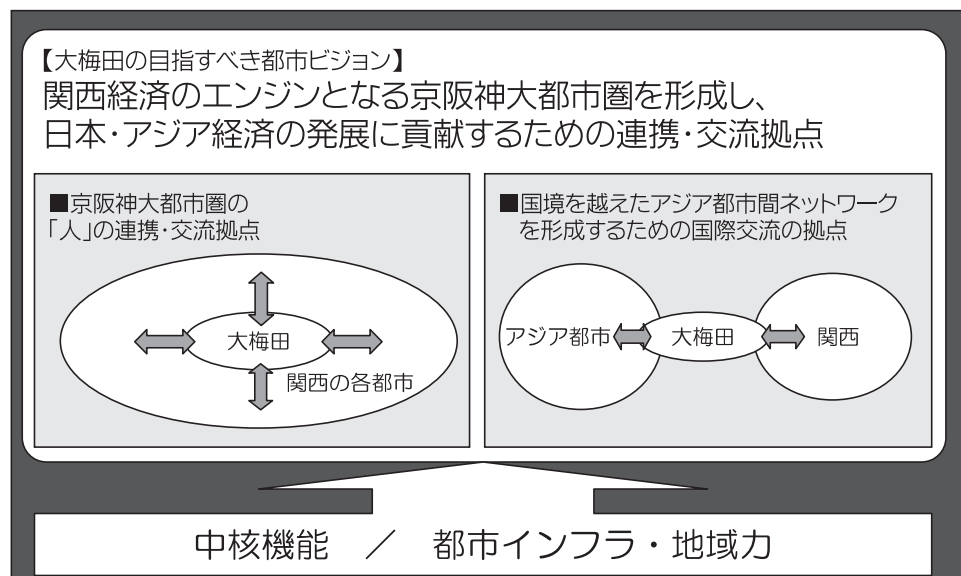
本章では、第2章で述べた関西の目指す姿（関西としての総合力を発揮し、首都圏と違う独自の価値観を発信できる、日本におけるもう一つの強い核）を実現するために、エリアのもつ特徴と課題（第3章参照）をふまえ、大梅田エリアが果たすべき役割と都市ビジョンについて述べる。

4-1. 大梅田の目指すべき都市ビジョン

① 大梅田の都市ビジョン

地域を経済面で牽引するのは都市圏の活力であり、その意味で都市圏は地域経済のエンジンといえる。関西経済を力強く牽引する強い京阪神都市圏を形成するために、関西のネットワークハブとしての特徴をもつ大梅田エリアが担うべき役割は大きい。すなわち、京都、大阪、神戸の各都市圏を連携し、関西経済のエンジンとなる京阪神大都市圏として機能させるための「人」の連携・交流拠点である。また、今後ますます重要性が高まるアジアとのつながりという観点においても、アジア都市間ネットワークを構成する上で玄関としての役割も求められている。

大梅田エリアは今後、その役割を果たすための中核機能と都市インフラ・地域力を備える必要がある。



② 大梅田の都市ビジョンを持続発展させる2つの好循環

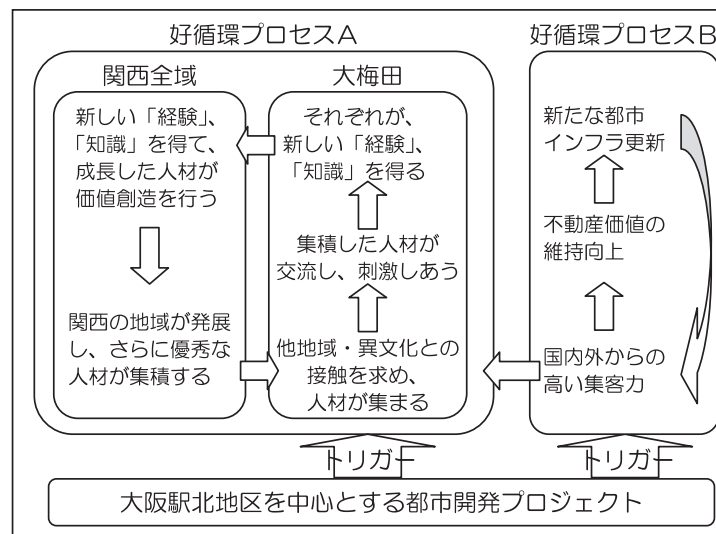
大梅田の都市ビジョンを実現し、持続的に継続させていくために、2つの循環プロセスを成立させることが必要である。

A：関西全域と大梅田の相互好循環プロセス

関西全域から「人」が大梅田エリアに集まり、異質な「人」との交流により、成長したり、新しい「知」を身につける。その成長した「人」が新しい「知」を持ちかえり、それぞれの地域での新たな創造活動を行うことにより関西全域の発展につながる。関西全域が発展することにより、さらに「人」が大梅田に集まり、交流が活発化するという好循環が求められる。重要なのは、関西から「人」が集積・定着するのではなく、異なる地域から独自性・独創性の高い多様な価値観を持った人が集まり、均質化することなく、刺激し合い、新しい価値を生みだし、また地域に戻っていくという「人の流れ」を生むことである。

B：大梅田の都市整備・運営の好循環プロセス

大梅田での各種の活動を支えるための「中核機能」、「都市インフラ・地域力」を一過性ではなく継続的に更新していくためには、関西全域、アジアからの集客力を向上させることが、不動産価値の維持向上、そして、レベルの高い都市インフラの維持、都市更新の推進につながり、さらに、集客力が上がるという好循環プロセスが必要である。



そして、大阪駅北地区を中心とする多くの開発プロジェクトがトリガーとして、この2つの好循環を起こしていくことが重要である。

4-2. 大梅田の中核機能

大梅田の都市ビジョンを実現させるために必要な中核的機能は、好循環プロセスAにおいて、大梅田で行われる①関西から多様な文化・知識を持つ「人」を集め、②いろいろな方法で刺激し、活性を高め、③交流により、新しい「価値」をうみだすための一連の機能である。

また、④アジアと人々と関西の人々との交流を促進する機能も重要である。

① 関西内外から多様な「人」を集める機能

関西からさまざまな世代、ジャンルの異なる価値観をもった「人」を集める。単に、商業集積による集客（形あるものを求めて集まる人たち）ではなく、「経験」「成長」「価値創造」を求めてやってくる「人」を集めてくることが重要である。また、これからの社会を担う学生や子供たちを集めることも非常に重要な要素である。

- ・大阪駅北地区に計画されているナレッジ・キャピタルを中心に、関西の技術者や学者、研究者などが集まる仕掛け（イベント、コンベンション等）
- ・大梅田エリア内の大学サテライトの集積を生かし、関西の研究機関の人々が情報交換・共有等を行う場の提供
- ・大梅田エリアに集積している大学サテライトにおいて、学習意欲の高い企業人を集めるための社会人教育講座を積極的に開講
- ・関西の研究機関と大学サテライトの協力による高度な技術・研究に関する学生や児童への啓発・教育プログラムを実施
- ・「人」を集めるための情報発信機能(メディア・情報発信企業)の強化

等

② 集めた多様な「人」を刺激し、活性化する機能

大梅田に集まった多様な「人」に対して、「知性」・「感性」に訴えるような刺激を与えることにより、それぞれの活性を高めることが、他の「人」たちとの積極的な交流につながるために重要である。また、その「知性」・「感性」に訴える刺激が集客力にもなる。

- ・大梅田エリアに集積している劇場やホールなどの施設が連携して行う文化性の高いイベント
- ・茶屋町等に集積しているクリエイターや専門学校生を登用して行うアートイベントや常設展示

- ・ 関西の研究機関のスタッフと大梅田に集まるさまざまな人々による「サイエンスカフェ」のような科学技術の普及・啓蒙の仕掛け
 - ・ アートを意識したインスタレーションや建物
 - ・ 商業施設におけるサブカルチャーのジャンルの店舗の積極的設置
- 等

③ 活性化された「人」を交流させ、新しい「価値」を生む機能

大梅田に集まった「人」のオープン、ボラタイル（揮発性）な交流からクローズドな交流までさまざまな交流を生み出すための機能が必要である。また、そこで生み出される独創性、独自性の高い「価値」（ライフスタイル、ビジネスモデル、アイデア、価値観、社会観）を共有・発信できるような仕組みも求められる。

- ・ 大阪に集積している大学サテライト間が連携して、異なる大学の学生の交流を促進するための仕掛け
- ・ それぞれの「人」の集客施設へのアクセスを意識的に交差させ、その交点にノードを設置することで異文化を持つ人間の交流を生み出す仕掛け
- ・ 交流を積極的に生み出すようなイベントの定期的な開催（コンベンションなどのイベントやアートイベント）
- ・ ワーカー同士の交流を促進するために、オフィスビルの低層部分のオープンなゆとり機能（くつろぎスペース、喫茶店など）を配置
- ・ 新しい価値を生むための環境整備（知的財産権活用など）

等

④ アジアの人々と関西の人々の交流を促進する機能

大梅田はアジアから関西への玄関として、アジアの人々を迎え入れる場所である必要がある。関西の人々が連携・交流し創造する輪の中にアジアの人々を容易に受け入れるような機能が求められる。

- ・ アジア各国の研究者やオピニオンリーダーが集い、諸課題への創造的解決について議論するシンクタンク、サロンの施設
- ・ アジア企業が関西全域の企業と連携・協業するための拠点設置
- ・ アジア各国の文化を発信する店舗や飲食店の集積

等

4-3. 大梅田の都市インフラと地域力

都市ビジョンを実現するための活動を支える大梅田エリアの都市インフラとして求められる要素を下記にまとめる。

【都市インフラ】

① 人を中心とした歩行者ネットワークを形成し、誰にでもやさしい街区

大梅田エリアの活力の源泉である「人」が集合・交流する都心空間を形成するために、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮したわかりやすいまちの実現を目指す。

- ・南北、東西の動線を中心として、エリア全体の回遊性を高めるとともに、周辺区域と一体になった街区の形成
- ・バリアフリーやサイン計画などに配慮した多様な世代や人々にやさしいまちの実現 等

② 広域交通体系における中枢拠点機能強化

- ・人の集合・交流の密度をさらに高めるために、関西の広域交通体系の中で関西の交通ネットワークハブとして位置づけ、大梅田の魅力である鉄道ネットワークの整備（JR東海道支線の地下化、なにわ筋線、十三・西梅田線）や、広域道路ネットワークの整備（淀川左岸線）を推進する。

③ 機能の複合化により多面的に交流を生み出す街区

オフィス施設、商業施設、エンターテインメント施設、アパートメント、ホテル等が混在しているというエリアの特長を、多様性を生み出す魅力として最大限に生かし、多様な人種のるつぼとなるよう、さらに戦略的に複合化を進めていく。

④ 環境共生都心の創造

大梅田エリア全体で通過交通を排除し、エリア内においてもエコロジカルな移動手段を最大限に活用するとともに、優れた環境関連技術を生み出している関西の拠点にふさわしい、緑豊かで自然と開放感に溢れる象徴的な街区を形成し、アジア、世界に環境共生都心としてアピールする。

- ・自然と緑豊かな、ゆとりと開放感のあるオープンスペースの形成
- ・駅前広場や歩道等の公共用地・民地を活用し、エリア全体と

して緑豊かで開放感溢れる空間の実現

- ・関西が誇る環境先端技術を活用し、エリア全体で環境負荷低減を実現
 - ・エリア全体の通過交通排除を目的とした域内ループエコバスの運行、最もエコロジカルな移動手段である自転車の活用を目指すレンタサイクルシステムや駐輪場整備など環境にやさしいモデル都心の実現
- 等

⑤ 安全で安心して訪れ、働き、暮らせる強い街区

大梅田エリア全体の防犯、セキュリティに配慮された安心・安全な街区を形成するとともに、京阪神都市圏の交流拠点としてふさわしい防災機能を地域全体で支える「強い街区」を目指す。

- ・事業継続（BCP）だけでなく地域継続（DCP）維持のための防災に強いまちの実現
- ・地域安全マップ作成など地域広域防災に資するまちの実現
- ・250万人におよぶ非常時の帰宅困難者に対応しうる広域的防災の観点に立った街の実現
- ・エリア全体の防犯・セキュリティ性の強い安全な街の実現

等

【地域力】

① 豊かな都市環境を民間活力の活用により実現する街区

大梅田エリアで活動するすべての人々に憩いの空間や緑などの象徴的な空間の実現を図る。これらの運営・管理については地域活力や民間のノウハウを最大限に活用するモデル都市の実現を目指す。

- ・既存の公園や広場と連携し、エリア全体を民間主導で自立的に運営管理する新たな手法の実現
 - ・さまざまなイベントやプロモーションにより人の集まる安らぎと憩いの緑や広場の実現
- 等

② 大阪駅北地区と連動した「連鎖的都市再生」を誘発する街区

大阪駅北地区のまちづくり組織と周辺の既存の組織が連携し、更なる活動を活性化することで、連鎖的な都市再生を誘導し、大梅田全体の「継続的な」発展を図る。

- ・既存周辺組織との連携を強化し、地域課題の解決、支援方策を検討するなど、エリア全体のまちづくりを誘導、支援を図る
- 等

*注⑤

将来の大阪シテイスタイル研究会

民間企業と行政が官民の枠を超えて、大阪の都市再生緊急整備地域のまちづくりを対象に事業の取り組みを支援することを目的として設立された任意組織。

構成メンバーは下記の通り

座長：村橋正武

副座長：角野幸博

民間企業22社、関係機関7者が参加

4-4. 大梅田の具体的な将来像

4-1～3で述べた都市ビジョンの具体像について、「将来の大阪シテイスタイル研究会」(*注⑤)による提案内容を元に本研究会で検討を行った。

都市ビジョンの具体的なイメージ(案)を図10-①に示す。それぞれのダイアグラムの解説については下記のとおり。

○「人」重視の街区形成

・各ゾーンのつながりを重視(図10-②)

隣接する地域間では、ノード、回遊動線等により、連携を図り、地域間の断絶要因を撤去していく。最重要課題であるJR東海道支線の地下化により、大梅田エリアの北西ゾーンへのつながりが大幅に改善される。

・多様な回遊動線とノードの設置(図10-③)

多様な回遊動線と駅、地下・地上・歩行者デッキを結ぶ集客ノードにより、選択制の高い歩行者空間を形成する。

・街区内の移動手段のシフト(図10-④、⑤)

地域幹線道路からの通過交通の排除と地域駐車場の設置・活用、街区地下駐車場の連携を図り、歩行者と主体とした都心部を形成する。また、地域、回遊バスや自転車移動などにより、人重視の移動範囲を拡大していく。

○連鎖的都市再生を誘発

・大阪駅北地区と連動したシンボル空間の地域への展開(図10-⑥)

シンボル空間(防災・環境・景観重視)、回遊動線等の設定を通して連鎖型都市開発を誘発していく

・戦略的な連鎖的都市再生の推進(既存街区のリニューアル)(図10-⑦)

大規模な建て替え開発プロジェクトに際し、業務、住宅、商業等の複合機能を超えて、知の交流、文化活動を促進する機能を付置し、都心型産業創造と都市計画を戦略的に連動させ、都心部の形成を図る。

○大梅田エリアから隣接する他のエリアへのにぎわいの拡がり(図10-⑧)

大梅田エリアから東西南北方向へのにぎわい・拠点性を周辺の広いエリアに波及させるために、積極的に回遊性・性格付けによるブランディングを行っていく。そのためには、他の地域のまちづくり組織との連携も必要である。

図10 大梅田の都市ビジョン：人の交流を促し、環境共生を実現するまち

